

小学5年

5年オリンピック 2021

本学級が開催国となり、学年での運動集会を運営

大まかな単元の流れ

議題決定
提案理由

AP

学級会

P

役割分担
準備

PDCA D

5年
オリンピック

D

ふりかえり

C

クラスの児童について

- ・相手の思いや考えを認めること、自分事として考え、進んで表現することに課題がある。
- ・「クラス全体」の立場に立って考える力をつけ、協力するよさを体験させたい。

手立てのポイント①

【目的を共有し、主体的な話し合いにする手立て】

事前に共通の体験活動をする

5年オリンピックでの種目は、みんなで力を合わせられるものという視点で、実行委員が①ドッジボール②借り物競走③つな引きの3つを選んだ。学級会では、これらの種目について、みんながより楽しめるための工夫やルールについて話し合う。しかし、「借り物競走」は、経験者が少なかったため、一度全員で体験してみることにした。体験では、「明るい人」など人柄を表す内容のものが、「嫌な思いをする人もいるから、人ではなく、物だけにしよう」など、体験したからこそ、種目の良さや課題がはっきりし、一人ひとりが自分の意見を持つことができた。

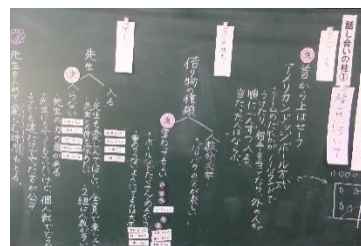


手立てのポイント②

【合意形成を図り、自己肯定感を高める手立て】

板書で内容を整理し、一人ひとりの意見を位置付ける

学級会1回目は、「今、何について話し合っているか」が分からなくなってしまう、話し合いが停滞し、合意形成が図れないまま進行してしまった。そこで、翌日、学級会2回目を行い、1回目ではよく分からなかった点を子どもと整理し、①アメリカンドッジボール方式、みんな理解できた？②借り物の物は、人数分、別の種類が必要？③つな引きで、先生は入る？入らない？の3点について明確にした。教師が板書役となり、何について話し合っているかを明確にし、そこにネームプレートを貼ることで、一人ひとりの意見や立場を尊重することで、話し合いは格段に活発になった。自分の立場をほぼ全員表明でき、自信につながった。



手立てのポイント③

【役割の中で主体的にPDCAを回し、協力する良さを味わう手立て】

自己決定した担当に取り組む

自分が希望した役割〈係〉につき、準備を進めた。「オリンピックを成功させたい」という願いのもと、主体的に同じ役割の友達と話し合いをし、作業したり、改善したりしながら、協力して取り組む姿が見られた。



手立てのポイント④

【自己肯定感を高める手立て】

他クラスからのメッセージで自分を振り返る

5年オリンピック終了後、他クラスから、「ありがとうメッセージ」が届いた。掲示すると、食い入るように読む姿が見られ、どの子も、満足な表情であった。楽しかったことに加え、「やってよかった」「成功した」という達成感を味わえる瞬間だった。



実践を通して見られた児童の様子

準備では、自分の役割に責任を持ち、進んで取り組む姿、仲間と協力する姿が見られた。走順、綱引きの位置、チームの旗などについて決める話し合いを自然と持つ中で、自己表現もできていた。集会が成功したことで、達成感を味わうとともに、他者のがんばりやよさに気づき、認めることができた。

実践詳細
の二次
コード

